令和2年度 第2回尾張東部教科用図書採択地区協議会 議事録

- 日 時 令和2年7月7日(火) 10:00
- 場 所 春日井市勤労福祉会館 第2会議室
- 出席者 協議会委員 35名 研究部長 13名 (欠席0名)

1 開 会

- 開会宣言

2 会長あいさつ

- 尾張東部教科用図書採択地区協議会会長よりあいさつ
 - ・ 本日の会議は、教科書採択の公正確保のため、非公開で行うことを確認する。
 - ・ ここに至るまでの経過を報告。令和2年5月中旬に書面にて研究員に打合せ事項を知らせ、5月29日(火)に本協議会の研究員打合会を開催し、その後、教科用図書について研究。
 - ・ 本日、その研究成果を報告するとともに、委員の協議により、本地区の子どもたちにとって一番ふさわしい教科用図書を選定していきたい。

3 協議方法について

- 選定の方法
 - ・ 協議会の会議において、委員全員の一致によって決まる。
- 資料の確認
 - ・ 愛知県令和3年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準
 - ・ 尾張東部教科用図書採択地区協議会選定資料
- 協議進行の手順
 - ・ 研究部長より、選定資料をもとに各教科用図書の説明
 - ・ 研究部長に質疑
 - ・ 研究部長退席後に、協議・選定

4 教科部長報告及び質疑、協議

- 中学校国語の報告
 - ・ 見本本の送付のあった東京書籍、三省堂、教育出版、光村図書の4社について研究し、報告(学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等)。
- 中学校国語の質疑
 - ・ ICT機器を活用し、主体的に学習を進めるための工夫はあったか。
 - どの教科書会社もデジタル教科書を作成し、生徒の関心を高めるための工夫をしている。QRコードも各社で教科書に載せ、資料などを閲覧できるようになっている。光村図書は、教科書の随所に

QRコードを記載しており、内容も著者のインタビューや音読など、特に充実している。

- ・ 特別支援教育への配慮に差が見られるか。

→ どの教科書会社も専門家、専門機関の校閲や検証を受けている。色覚特性のある生徒に配慮し、色に頼ることなく線の種類や形などを変えるという手がかりが設けられている。光村図書は小さな文字に特別なフォントを使用し、視認性をよくしている。

- ・ 情報の扱い方に関する題材について、どのように取り上げられていたか。

→ どの教科書会社も「情報の扱い方に関する事項」に関する題材が掲載され、適切であった。光村図書では、「情報整理のレッスン」「思考のレッスン」という見開きのコンパクトな教材を設け、重要なポイントがわかりやすくまとめられている。

○ 中学校国語の協議

- ・ 内容の構成で言うと、光村図書は3領域がバランスよく系統的に配列されている。学習過程を表す言葉が「読むこと」の領域と「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域とで2種類にまとめられており、領域ごとに色使いを統一され、学びに向かいやすくする工夫がされている。また、小さい文字は、ユニバーサルデザインフォントが用いられ、配慮されている。

- ・ 新学習指導要領でも重視されている深い学びをしていくためには、他教科と関連させたり、つなげて考えたりすることが求められる。そういう点で、光村図書は、他教科やキャリア教育、日常生活、社会生活との関連を図ることができるよう題材・話題が選定されている。巻末の「学習を広げる」では、教材に関連した資料がまとめられており、補充・発展的学習への配慮がされている。

- ・ あいちの教育ビジョンにもあるように、どの教科においても人としての在り方・生き方を考える教育を充実させ、道徳性・社会性を育むことが大切である。国語においても、さまざまな教材に触れ、発達段階に応じて、命を大切にする心や他人を思いやる心、人権を尊重する心などを育てていきたい。光村図書は、様々な状況の中で生きる人々の姿に触れることのできる教材を取り上げ、多様な存在を尊重し、生きていこうとする心をもった人間を育てられるよう工夫されている。また、随所に記載のQRコードから教材の内容と連動した資料が閲覧でき、充実している。これらのことから考えて、光村図書を選定してはどうか。

- ・ 協議の結果、全員一致で「光村図書」のものを選定する教科書として決定。

○ 中学校書写の報告

- ・ 見本本の送付のあった東京書籍、三省堂、教育出版、光村図書の4社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 中学校書写の質疑

- ・ 文字を正しく整えて書くだけでなく、書写で身につけた能力を、他教科や実生活で役立てることができるような工夫や配慮はされていたか。

- 各社とも、楷書、行書の基礎的な技能の習得を目指し、段階的に丁寧に学習できる配慮が随所に見られた。特に、学習の手順が明確に示されたり、学習で気づいたことを書かせる欄が設けられたりするなど、生徒自身が主体的に書写学習に取り組めるような工夫がされていた。また、手紙の書き方を始め、ノートやレポートの書き方、伝票や入学願書など、日常生活に密着した課題がいくつも示され、書写で身につけた能力を実生活に結びつける単元が多く見られた。
 - ・ どのような点が改善され、配慮されているか。また、どのような点を中心に評価したか。
- 各社とも、毛筆と硬筆を関連付けながら学習できるよう、また、日本の伝統や文化を尊重する態度を見につけるよう、そして自ら考えたり話し合ったりする活動を取り入れるなど、それぞれ配慮がしてあった。その中でも、自ら課題を見つけ、効果的に学習できるような工夫がされていること、振り返りの活動が的確かつ確実にできる配慮のされたものを評価した。
 - ・ 障害やその他の特性の有無にかかわらず、生徒にとって読みやすいように、ユニバーサルデザイン化に向けた取組がされている中で、教科書の中ではどのような配慮がされているか。
- 各社とも、本文やグラフの線で太いフォントを利用したり、色覚の特性に配慮した見やすい色を使用したりしている。レイアウトの部分でも、重要な部分を囲んだり、写真を重ねるときには、境目をわかりやすくしたりするような配慮がされていた。

○ 中学校書写の協議

- ・ どの会社も身の回りや日常を振り返って文字文化に親しみ、生活に生かすことができるように工夫されている点は評価できる。特に教育出版はレポートや手紙、掲示物等の書式が示され、学習したことを日常生活の場面に生かすことができるよう工夫されている。
- ・ どの会社も毛筆と硬筆を関連させて効果的に学習できるように、そして学んだことを実生活で活用できる力が身につくようにしているのはよくわかる。しかし、そこに課題意識をもたせて関連させているのは教育出版で、硬筆の「試し書き」で見つけた課題を毛筆で学習し、硬筆に応用するよう、工夫されている。自らの課題解決に向けて方法を選択し、自分のもつ力を高め、自分を生かすための配慮もされているという点が評価できる。
- ・ 書写においては、我が国の伝統的な文字文化を継承し、これからの社会に役立つ様々な文字文化に関する「知識及び技能」について理解し、文字を効果的に書くことができる力を育成することが大切である。教育出版は、書写の基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、幅広い知識と教養を身につけるだけでなく、文化・伝統につながる発展的な内容が随所にちりばめられ、文字文化に親しみがもてる構成となっている。教育出版の教科書がふさわしいと思うがどうか。
- ・ 協議の結果、全員一致で「教育出版」のものを選定する教科書として決定。

○ 中学校社会の報告

- ・ 地理的分野については、見本本の送付のあった東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版の4社について、歴史的分野については、見本本の送付のあった東京書籍、教育出版、帝国書院、山川出版社、日本文教出版、育鵬社、（学び舎については、見本本の送付がなく、研究できず）

の6社について、公民的分野については、見本本の送付のあった東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社の6社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 中学校社会の質疑

- ・ 新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように配慮されているか。
→ 各社とも「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう工夫された構成となっている。特に、東京書籍は、多様な思考ツールを活用して学習内容を考察する「まとめの活動」を設け、思考を整理し学びを深められるよう工夫したり、小集団での参加型学習を行う「みんなでチャレンジ」コーナーを適宜設けたりして、対話的な活動を効果的に実践できるよう工夫されている。
- ・ 小学校と中学校における系統性や連携への対応はなされているか。
→ 各社とも工夫が見られ、発達段階に即した系統的な指導ができるようになっている。中でも、東京書籍は、第6学年の政治先習など、大きく変わった小学校社会科との系統性を重視し、小学校と同じ写真資料を用いたり、政治、経済、国際社会の現状と課題を分かりやすくまとめたりしている。「7年間の社会科学習」を意識して小中連携をより重視していると言える。
- ・ SDGsなど持続可能な社会の実現に向けた、現代的な諸課題に十分に対応しているか。
→ 各社とも十分に対応しているが、東京書籍は、「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」の五つのテーマで貫き、現代的な諸課題を意識しながら学習を進められるよう配慮されている。特に公民的分野で、本文でも図版でも丁寧に取り扱い、巻末資料に「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を掲載していて、現代的課題に対応する姿勢がうかがえる。

○ 中学校社会の協議

- ・ 社会科においては、社会的な問題を自分事として捉えることが大切だと考える。東京書籍は、我が国や国際社会の現代的な諸課題を取り上げ、よりよい社会の在り方について、解決策を他者と協働しながら構想できるように工夫されている。また、「防災」「情報技術」「共生・多様性」など現代社会につながる歴史的事象が多く取り上げられており、地域の歴史や文化の調べ学習を通して、課題追究学習を実践することが、あいちの基本理念「社会に役立つこと」にもつながる内容になっている。
- ・ どの会社も主体的に社会に参画する態度を養おうという工夫がされている。教育出版は、今日的な課題の解決を通して、社会を築いていくために、主体的に社会に参画する態度を育む工夫がされている点で一定の評価ができる。ただ、同時に国際社会に生きる子どもたちには、文化の違いや共存の仕方を学んでいく必要がある。東京書籍は、その文化の多様性や共生社会等の具体例を取り上げ、世界的な視野を広げることができるとともに、持続可能な社会の形成に向けて学んだことを社会に生かそうとする態度を高める工夫をしているという点で高く評価できる。
- ・ どの教科においても、さまざまな事象をつなげて考え、自分の中に落とし込むことで知識はより深まっていく。3分野ある社会科では、そこをより重視したい。一つの事象について、3分野で

共通した資料を扱い、各分野の視点から多面的・多角的に考察できるよう配慮されている東京書籍は、ふさわしい教科書だと言える。また、小学校の学習内容との円滑な接続・連携を図るとともに、分かりやすい記述や豊富な資料を基にした学習内容で構成し、資料と本文を一致させて効果的・意欲的な学習が進められる工夫をしているのも東京書籍の良さであると思う。他の会社もそれぞれ良さはあるが、地理、歴史、公民の3分野どれも東京書籍を選定してはどうか。

- ・ 協議の結果、全員一致で、地理、歴史、公民の3分野どれも、「東京書籍」のものを選定する教科書として決定。

○ 中学校地図の報告

- ・ 見本本の送付のあった東京書籍と帝国書院の2社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 中学校地図の質疑

- ・ 地図帳の使いやすさという点での違いは何か。
 - 帝国書院の地図は、五色刷りで鮮明に印刷され、高低差や土地利用の様子、県境や国境が分かりやすくなっている。また、表記されている文字の重なり配慮により、細かな部分も確認しやすくなっている。さらに判型がA4判に大判化されており、見やすいだけでなく、地図の範囲が拡張され、地域的特色を捉えやすくなっている。東京書籍の地図は、色が鮮明ではなく、全体的な色調が似ているため、高低差や土地利用の様子などが分かりづらくなっている。さらに字間が狭いところがあり、さらに密になっているため、全体的に確認しづらい感じを受ける。

- ・ 防災教育の観点での違いは何か。
 - 帝国書院の地図は、日本の自然災害について、阿蘇や富士山など噴火の恐れが高い地域や、南海トラフ地震をはじめとする各地の地震について起こりうる被害と、具体的な対策を「防災」のコーナーで図説している。ピックアップされている自然災害は、地理の教科書との連携もとれている。また、「地図活用」のコーナーにおいても、対策方法を生徒に思考させる工夫が施されている。東京書籍の地図は、目次に自然災害の写真を扱ったページがあり、資料を探しやすいよう工夫されている。ただ、自然災害が起こった様子や被害状況の資料がほとんどで、防災対策の具体的な資料は防災マップ程度にとどまっている。

- ・ 「あいちの教育の基本理念」を達成するために、どのような編集の違いがあるか。
 - 帝国書院の地図は、「共に生きる」の観点で、世界の諸地域の様子について、国籍の違いや言葉の違い、文化や生活習慣の違い等を理解し、多様性を尊重できるよう配慮されている。また、日本が直面している自然災害や環境問題への対応・対策に関する分かりやすい資料が多数掲載され、防災への意識が高まるよう工夫されている。東京書籍は、「世界にはばたく」の観点で、海外で活躍する日本人や企業をはじめ、日本の郷土料理や伝統工芸品、世界遺産について地図や写真を取り上げ、日本が誇る伝統や文化について理解できるよう配慮されている。

○ 中学校地図の協議

- ・ 帝国書院の地図帳が、一般図・拡大図・資料図・鳥瞰図・模式図・イラスト・写真・統計資料等が精選されており、地域の特色を多面的に把握できるよう配慮されている。作業コーナー「地図活用」が多数設けられ、読図などの技能の習得と社会的な見方・考え方を働かせた学習ができるよう配慮されていて、新学習指導要領を十分踏まえていると言える。
- ・ 子どもたちが近い将来、国際社会を生き抜いていくために、日本と世界に関する幅広い知識と、地理的事象を追究する力を身につけることが求められる。その中で、帝国書院の地図帳は、社会の形成者としての参画意識を育むことができるよう効果的に編集されている。また、持続可能な社会や、日本で起こりやすい自然災害やその対策に関する資料が多数掲載されており、環境教育、防災・安全教育の充実に対応できるよう配慮されていることもよい。
- ・ 世界とのつながりが重要となるにつれ、グローバル化への対応の必要性も高まってきた。今年度から、地図帳の使用が一年早い小学3年生からになり、一層の地図帳活用が求められるようになっていく。地図帳の活用は、情報活用能力の育成の観点から言っても重要である。そう考えたときに、帝国書院の地図帳は地域の特色が適切に理解できる資料が掲載されており、必要な情報を活用していくことで、教科書で取り扱われる内容をより深めることができる。地図帳は、帝国書院を選定してはどうか。
- ・ 協議の結果、全員一致で「帝国書院」のものを選定する教科書として決定。

○ 中学校数学の報告

- ・ 見本本の送付のあった東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館、教研出版、日本文教出版の7社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 中学校数学の質疑

- ・ 今回の検定教科書において、これまでとは違い、特徴的なことは何か。
- 全体的に、学習指導要領の趣旨に基づいて編集されている。今回の検定教科書の特徴は、今日的な課題が多数盛り込まれていた。キャリア教育や防災教育に関連した題材、国際社会への理解、そして、プロミシング的思考や持続可能な開発目標を意識した題材など、数学を通して社会のあり方を考えさせる内容にもなっていた。さらに、随所にQRコードが配置され、ICTを意識した補助教材があり、時代の変化に即したものになっていた。
- ・ 教科書選定の基本的な考え方の中に「あいちの教育ビジョン2020」に掲げられた「あいちの教育の基本理念」との関連が示されているが、教科書の中にそれに資する特色がどのように見られるか。
- あいちの教育の基本理念より、「自ら高めること」と「社会に役立つこと」を基本的視点としたあいちの人間像の実現が示されている。時代の変化に対応するためには、様々な知識を整理・統合して理解し、実社会で問題解決のために活かしていく力が必要になる。そのような力を育むために、各社の教科書では、身のまわりの題材が多く取り上げられ、数学が生活や社会の中で有用

に働いていることを実感させながら、多様な考え方を引き出し、問題解決を図れるよう編集されていた。特に、啓林館では、多面的に吟味してよりよい解決法を目指せるように批判的に考察する力も意識されており、創意工夫のある構成になっていた。

- ・ 学習指導要領の数学科の目標の中に、数学的に問題発見・解決する過程である「数学的活動」が重視されている。そのイメージ図も示されているが、教科書ではどのように意識されているか。
- 学習指導要領では、身のまわりにおける数学の場面から問題を発見し、解決するまでの過程が重視されている。その過程をしっかりと意識できるように、各社の教科書においても「数学的活動」を取り入れながら、段階的に問題解決が図られていた。与えられた問題をただ解くだけでなく、自分から問題を見い出したり、解いた問題からさらに発見させたりする力を育成することが大切だ。特に、啓林館では、利用場面から課題を解決する過程を4段階に分けて丁寧に示されており、このステップを繰り返し目にすることで、自分から問題を発見し、解決する力が身につくと考える。

○ 中学校数学の協議

- ・ 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考える資質・能力を育成していくことが求められている。各社の教科書においても、自分が考える際の手がかりとなるように、課題に対する見方・考え方が工夫して記載されている。特に、啓林館では、ページの下の一箇所に記載されており、繰り返し目にしたり、改めて振り返ったりすることで、数学的な見方・考え方が自然に意識されるように作られている。数学の学習だけでなく、社会生活の課題に対しても役立つ見方・考え方を意識する習慣が育まれると思う。
- ・ どの会社も、実生活や日常の中から課題を見いだせるような工夫がされている。中でも啓林館の教科書は、実生活に直結した「利用場面」が随所に設定されており、その問題解決を図ることで学習内容を社会生活に生かそうとする意欲化が図られている。また、自分で学習内容をまとめたり、友達と話し合ったりする活動が多く取り入れられており、主体的に理解を深め、自己を高められるよう工夫されていて評価できる。
- ・ 新学習指導要領では、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」という「主体的・対話的で深い学び」が重視されている。その視点で見たときに、啓林館の教科書は、「話しあおう」や「説明しよう」のところで、多様な考えに触れたり、筋道を立てて説明したりする場が設定されており、対話をしながら深い学びへつなげられるように編集されている。また、キャリア教育やプログラミング的思考の育成など、今日的な課題も盛り込まれており、時代に合わせた内容で数学の力を育むことができるよう工夫されていることから、総合的に考えて、啓林館の教科書を選定してはどうか。
- ・ 協議の結果、全員一致で「啓林館」のものを選定する教科書として決定。

○ 中学校理科の報告

- ・ 見本本の送付のあった東京書籍・大日本図書・学校図書・教育出版・啓林館の5社について研究し、

報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 中学校理科の質疑

- ・ 新学習指導要領の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善についてはどうだったか。
- 今回扱った5社すべてにおいて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、話し合いやグループ学習などの協働学習の場面が設定されていた。また、理科の見方・考え方を働かせながら探究の過程を通して学ぶことができるように工夫されている。特に東京書籍は、理科の見方・考え方や活動の結果を例示することで対話的な活動を通して深い学びができるように工夫されている。さらに、節末や章末に「学びをいかして考えよう」「学んだことをつなげよう」を設定することで、学んだことを日常生活や社会と結びつけ、生徒が新たな問題を見いだせるように工夫されている。
- ・ 教科横断的な学習や教科内におけるキャリア教育が実現できるように工夫されているか。
- いずれも教科横断的な学習や教科内におけるキャリア教育が実現できるように工夫されている。特に、東京書籍の教科書では、関連する内容について、デジタルコンテンツが用意されており、他教科とのつながりをすぐに確認できるようになっている。また、キャリア教育については、巻頭コラム「私たちとつながる科学」や単元末コラム「世界につながる科学」、単末コラム「未来への科学」などで、学習内容に関連するさまざまな職業に就いている人が紹介されている。子どもたちが将来を考えるきっかけとなるものと思う。
- ・ 観察・実験の位置づけや記録の整理について、5社を比較研究してみてどのような違いがあったか。
- 今回比較した5社の教科書について、いずれも、問題を見出し、問題解決につなげるという流れの中で、効果的に観察・実験を位置づけている。また、記録の整理において、いずれも、まとめ方の見本を示し、ポイントを押さえて記録が整理されている。特に、東京書籍は、身近な題材から問題を見出し、観察・実験につなげる流れがスムーズで、観察・実験のねらいが明確に示されている。また、記録の整理においても、結果と考察のポイントを分けて記述することで、生徒の理解が深まるよう工夫されている。

○ 中学校理科の協議

- ・ 東京書籍は、科学的な見方や考え方を働かせながら、思考力、判断力、表現力が自然に育成できるように工夫されている。観察・実験の行いやすい時期を加味した編集がされていて、各章の配列や関連付けが適切である。対話的な学びを喚起するイラストや探究の流れをフローチャートで示すなど、見通しをもって活動ができるよう工夫されている。また、実験に欠かせない安全のためのマークや注意が赤字で示されているのもよい。
- ・ どの会社も、身近な事物・現象と関連した観察や実験、課題を取り入れているが、東京書籍については、導入や章末において、身の回りの事象について考えさせる場面も設けている。また、課題を自分の問題として目的意識をもち、主体的に学習に取り組むように工夫されているところが

評価できる。

- ・ 技術が発達し続ける現代において、東京書籍の教科書のように、身の回りの事象について考えさせ、課題を自分の問題として目的意識をもたせることは重要な意味をもつ。また、日本の優れた研究技術、それに関わる人物等の記述が充実し、将来を考えるキャリア教育に役立つように工夫されていて、理科を学ぶことの意義や有用性を実感できるのではないだろうか。デジタルコンテンツと連携して補充的・発展的な内容が扱えるよう、配慮されているのもよい。以上の理由から、理科の教科書として東京書籍を選定してはどうか。
- ・ 協議の結果、全員一致で「東京書籍」のものを選定する教科書として決定。

○ 中学校音楽の報告

- ・ 音楽一般、器楽合奏ともに見本本の送付のあった教育出版社・教育芸術社の2社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 中学校音楽の質疑

- ・ 新学習指導要領に示された「音楽的な見方・考え方を働かせた主体的、対話的で深い学び」を実現するための工夫はなされているか。
 - アプローチこそ違っても、両社ともに新学習指導要領の趣旨を生かした構成となっている。特に、「音楽的な見方・考え方」の礎となる「共通事項」を明示し、学習のめあてと照らし合わせて、主体的に学習が進められるよう工夫されている。特に、教育芸術社は全ての教材に共通事項である「音楽を形づくっている要素」と「音符・休符・記号や用語」のどの部分に着目するのかが明示されているので、学ぶ側にも指導する側にも学習の見通しが立てやすい。また、対話を通して学べるよう工夫された「深めよう音楽！」が適度に配置され、対話的で深い学びへと導きやすくなるようになっている。資質・能力の育成をわかりやすく提示している。
- ・ 技能の差が付きやすい器楽分野では、どのような工夫がされているか。
 - 両社ともに写真やイラストを豊富に使い、視覚的に大変わかりやすい構成となっている。また、奏者からのメッセージやアドバイスを掲載し、興味関心を高める工夫をしている。教育出版社は各楽器で使用されている演奏写真が演奏者から見た目線でのアングルで撮られているものが多く、生徒が写真と自分を見比べながら学習しやすくなっている。また、ギターのコード表は実際の人間の手の写真となっており、微妙な指の曲げ方等が大変わかりやすくなっている。
- ・ 音楽的素養が学習に影響を与えやすい「創作」において、どの子ども取り組みやすくするための工夫はなされているか。
 - 両社ともに「創作」に関してはワークシート形式を取り入れ、抵抗感なく楽しみながら取り組めるように工夫をしている。教育芸術社は「My Melody」として旋律づくり「Let's Create!」としてリズムづくりを取り上げ、創作手順や記入例を丁寧に示し、抵抗感なく取り組めるよう工夫をしている。また、基礎的な部分から発展的な部分へと段階を経た課題を明示することで、個々の

能力に合わせた学習の進め方を可能としている。

○ 中学校音楽の協議

- ・ 音楽一般では、教育芸術社が「学びの地図」で、各教材毎の学習内容と目当てを明示し、全ての教材に対して共通事項のどの要素に着目して学習をすすめるのかが記載されているため、学ぶ側にも指導する側にも見通しがもちやすい。諸外国の古い歌と日本歌曲を比較させ、生徒の興味関心を高めるとともに、音楽に対する視野を広げる工夫がされているのも評価できる。
- ・ 器楽については、教育出版により魅力を感じる。基本的な奏法を身につけながら学びのねらいをもって始まり、合奏を含めた学び合える展開、終末はまとめの曲が設定され、見通しをもった器楽の活動ができるように工夫されている。また、段階的に技能が身につくよう、明確なねらいのもと、取り組みやすく編曲された教材が配置されており、自主的な活動を促し、進んで学び合えるよう配慮されている。
- ・ どちらの教科書会社もそれぞれの分野で特色があり、評価できる。今回の新学習指導要領の改訂のポイントにある、「生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう工夫すること」を一つとってみても、「音楽一般」では、教育芸術社が、日本の伝統音楽の学習後に日本各地の郷土の音楽に関わる中学生の様子を写真やインタビューで紹介し「文化の継承」に関心が高まるように工夫している。一方「器楽」では、教育出版が我が国の伝統や文化の継承につながる和楽器について、わかりやすく多種取り上げ、和楽器に口唱歌を示す配慮をしたり、和楽器と諸外国の楽器の奏法や音色を比較し理解を深めることができるようにしたりして工夫している。以上のことから考えて、「一般」は教育芸術社、「器楽」は教育出版を選定してはどうか。
- ・ 協議の結果、全員一致で一般は「教育芸術社」、器楽は「教育出版」のものを選定する教科書として決定。

○ 中学校美術の報告

- ・ 見本本の送付のあった開隆堂、光村図書、日本文教出版の3社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 中学校美術の質疑

- ・ 愛知の教育の基本理念との関連はどうか。
- 3社ともに共通しているのは美術家やデザイナー以外にも俳優やミュージシャン、料理家や科学者など幅広い分野で活躍する著名人と美術との関わりを紹介することで、美術での学びが幅広く社会で生かされるということを強く打ち出すものとなっているということである。光村図書は芸術に関わる催しや、芸術家の活動、メッセージもが載せられ、地域や人と美術とのつながりが、地域の活性化を生むや人の心に働きかけるということが理解しやすくなるよう工夫がされている。
- ・ 内容等について各社が工夫されていることは何か。

→ 開隆堂は、各学年の発達段階に応じた作品例を多数掲載しており、段階に応じた表現の幅広さを紹介している。そのため個人差のある作風から、個性を尊重できる生徒の育成を考えた編集がされている。また発想や構想の方法や学習の進め方など制作の柱となるポイントをマーク化して適宜紹介しており、制作の見通しが立ちやすくなるよう配慮されている。光村図書は、日本の伝統工芸作品や、身近な生活・社会の中の美術文化に関わる教材が取り上げられ、生活全般で美術を愛好する態度が養われるよう配慮されている。各単元で豊かな表現ができるように、発想を広げ、構想を練るための手立てが示され、制作の参考になる編集がされている。日本文教出版は、図版や写真に多くの説明文や作者の言葉が掲載されており、情報量が多く読み応えある編集となっている。鑑賞して説明文や作者の言葉を読む視線や導線が、様々な作品の魅力に気づくような流れを作り出しており、深く学びとることができる工夫がされている。

- ・ 作品鑑賞する上で、各社が工夫していることは何か。

→ 開隆堂は、幅広い種類の参考資料に加えて、生徒の参考作品も掲載されているため、生徒の意欲をより高める工夫がある。また、原寸大の資料や拡大した資料も多いため、筆跡や凹凸なども身近に感じられるようなレイアウトになっている。光村図書は、原寸大の資料や拡大資料に加えて、紙質を使い分けて触覚に訴えるような印刷がしてある。レオナルド・ダ・ヴィンチの最後の晩餐の資料の上にトレーシングペーパーを載せることによって、直接鑑賞内容を書き込むことができるようにしたり、一点透視図法についての説明がしやすいようにしたりするなど、作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫を表現しやすくしている。日本文教出版は、大きな図版を用いて、豊富な参考資料以外にもレイアウトの工夫が随所にみられる。また、原寸大で提示をしたり、屏風絵を折り曲げて立たせて鑑賞できるようにしたりして、生徒が印象強く作品を鑑賞でき、興味・関心を高めながら美術文化への見方を深めることができるようになっている。

○ 中学校美術の協議

- ・ どの会社も印刷が鮮明であり、作品の質感がわかりやすい。中でも、光村図書は作品によって用紙を使い分けるなど、生徒の感覚に様々な形でアプローチして生徒の学びの質を高める工夫がされている。文字フォントは、大きな文字から小さな文字まで大変読み取りやすく、理解しやすい。制作過程の説明に作者の言葉と写真を複数使い、学びに向かいやすいよう工夫されていると感じる。
- ・ 光村図書のように、作者の言葉や巻末資料の技法のページが示されることで表現の理解を深め、幅を広げることができる。また、現代社会が抱える今日的な課題や地域に根ざした美術文化を積極的に取り扱っており、将来にわたって造形活動に親しむ姿が想像できる。
- ・ 新学習指導要領では、生活や社会の中の美術、美術文化などと豊かに関わる資質・能力をより一層重視している。そういう点で、光村図書は様々な図版資料やQRコードを取り入れる工夫をすることで、視覚だけでなく触覚・聴覚などにも訴えかけながら、より多くの生活の中の美術文化に触れ、生活の中の美術を感じ取ることができるように工夫されている。また、各領域のバランスが良く、表現の各領域に関連した「鑑賞」を配置し、各学年の内容に系統性をもたせて構成さ

れている。他教科での学びを意識しながら、表現や鑑賞の活動が行えるよう工夫されていることから、美術の教科書には、光村図書がふさわしいと思われるがどうか。

- ・ 協議の結果、全員一致で「光村図書」のものを選定する教科書として決定。

○ 中学校保健体育の報告

- ・ 見本本の送付のあった東京書籍、大日本図書、大修館書、学研の4社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 中学校保健体育の質疑

- ・ 新学習指導要領では「どのように学ぶか」が大切となる。その上で、「主体的で、対話的で深い学び」の授業を展開するのに、どのような教科書が使いやすいのか。
- 対話的な学習をさせるため、情報過多ではなく時間的余裕が生み出せる教科書が最も使いやすいと考える。この点において、大日本図書の教科書は資料や記事、イラストも精選され情報過多になっておらず、さらに、対話的な学習をさせても、十分にこなせるだけの文章量であった。また、1時間の授業内容を見開き2ページとし、そのレイアウトを左側が文章、右側が資料と統一している。さらに、心肺蘇生法の実習のページは見開き3ページの紙面構成にしてあるので、実習時には大変使いやすい構造となっている。- ・ どの教科書もユニバーサルデザインやカラーユニバーサルデザインを採用しているようである。それらに明確な違いはあるのか。

→ どの教科書も、文章を読み取りやすくしたり、読みやすい書体を使用したりしている。また、教科書に使われているマークを統一してどの単元も同じように学習を進めていけるようにしてあることは共通しており、それについての違いは感じとれなかった。しかし、教科書の1ページのレイアウトを一目で分かるデザインするのか、見開き2ページをそうするかで、紙面構成が大きく変わり、教科書全体の統一感がなく、雑然とした印象になっていたものがあつた。色覚の多様化に配慮したカラーユニバーサルデザインによる配色が用いられているが、出版社によってそのニュアンスが異なり、「淡く明るい色調のもの」と「鮮やかさのない落ち着いた色調のもの」に大別できた。また、カラーユニバーサルデザインによって、健常者にとって違和感のある配色になったり、印字が見づらくなったりしているように思えるものもあつた。- ・ 今日的な課題について学ぶことができるように配慮はされているのか。

→ 今日的な課題を本文中には大きくとりあげてはいない。発展的な内容や章末資料、コラムなどに、それらについて考えることができるようにしてある。どの教科書も「放射線と健康」を発展的な内容や資料に載せ、放射線について学習ができるようになっているが、詳しく解説しているものとそうでないものの差は激しかった。どの教科書も思春期の心についての学習で、SNSや携帯電話等に関する問題点を考えさせる記事やコラムを載せ、情報モラルについて主体的に考える機会を設けている。心肺蘇生法の実習は、どの出版社も多くのページ数をさき、蘇生法の最新情報を丁

寧に解説している。持続可能な開発目標、SDGsに関する内容を大きく取り上げているものもある。感染症対策では人体の免疫システムの解説や性感染症の動向など新しい情報に更新されている。マスクや手洗いについての情報を載せているものもある。

○ 中学校保健体育の協議

- どの教科書会社も、新学習指導要領の趣旨にのっとり、心と体を一体として捉え、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てられるよう工夫している。中でも大日本図書は、主体的・対話的で深い学びができるように工夫されており、心身の健康と生涯にわたって運動に親しむことの必要性を自らのこととして捉え、実践力を育成するような内容となっている。
- 大日本図書は、世界で活躍する人物を多数紹介しており、これからの人生をたくましく生きようとする意欲を引き出すように工夫されている。社会性の発達や人々の健康を支える取組を取り上げることで、尊重し合うことの大切さを感じることができる内容になっている。
- 保健体育では、生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養うことを目指している。今は携帯電話やスマートフォンを所持している中学生も多いが、その機器に振り回され、自己の健康管理ができていない生徒もいると聞く。それらを適切に活用し、自己管理することが健康管理につながると考える。大日本図書の教科書には、情報活用能力・情報モラルについて効果的に学習できるような特設ページを設けているスマートフォンの利用方法について考えさせる内容があり、今日的課題に合っている。また、機器を用いた実験や、ストレスの対処のしかた、心肺蘇生法などの実習などを数多く取り入れている。心肺蘇生法は、見開き3ページを使って詳細な説明がある。学習したことを生活の中で実践していくことができるように配慮されている。総合的に考えると、大日本図書がふさわしいと思われるがどうか。
- 協議の結果、全員一致で「大日本図書」のものを選定する教科書として決定。

○ 中学校技術科の報告

- 見本本の送付のあった東京書籍、教育図書、開隆堂の3社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 中学校技術科の質疑

- 学習の進め方の特徴として各社どんな特徴があるか。
 - 東京書籍は、技術の最適化というところから製品を見ていけるように構成されている。教育図書は、段階をふみながら順番に学習が進められるように構成されている。開隆堂は、PDCAサイクルを意識して学習を進められるよう構成されている。
- 持続可能な社会に向けた内容はしっかり取り入れられているか。
 - 3社とも環境問題やエネルギー問題についての記述はしっかりあり、特集を組んで深く学べるようになっている。また、「これからの技術」についての記述も各社特徴があり、生徒の興味・関

心を高める工夫もされている。

- ・ 内容の構成で、他教科等と関連づけながら学習活動が進められるようになっているか。
- 3社共に小学校や他教科との関連についてリンクマーク等で紹介されており、教科間の連携や関連付けがしっかりされている。

○ 中学校技術科の協議

- ・ 技能の習得場面において安全指導は欠かせない。東京書籍は、冒頭資料に安全な作業を示すとともに、本文中には「安全」「衛生」マークを分かりやすく配置し、注意を喚起するよう配慮されている。デジタルコンテンツ・挿絵・イラスト・写真・図表が本文の記述に対応して豊富な配列がされており、適切に関連付けられている。
- ・ 東京書籍は、豊富な「資料」や「問題解決例」を通して、生徒が主体的に問題解決に取り組めるよう構成されている。また、実生活に生かすことができる学習課題を取り入れ、学習したことを日常生活に役立てられる内容が充実している。様々なマークを用いて他教科や小学校での学習と関連づけながら学習が進められるよう工夫されているのもよい。
- ・ どの教科書会社も、生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能が実習を通して確実に習得できるよう、編集されていると思う。中でも東京書籍は、生徒が主体的に問題解決に取り組めるよう豊富な問題解決例を示し、興味・関心が高まるよう工夫されている。また、学習内容に関連した技術に携わる人のメッセージが多く紹介されており、ものづくりにおける責任感や倫理観、職業観や勤労観が養われるよう配慮されている。社会で活躍する技術に携わる人を「技術の匠」として紹介し、産業教育の重要性を意識できるようにしている。持続可能な社会の構築に向けた現代の社会生活や科学技術の進歩に対応した内容が示されている東京書籍の教科書を選定してはどうか。
- ・ 協議の結果、全員一致で「東京書籍」のものを選定する教科書として決定。

○ 中学校家庭科の報告

- ・ 見本本の送付のあった東京書籍、教育図書、開隆堂の3社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 中学校家庭科の質疑

- ・ 学習指導要領の目標に「よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う」とある。そのような資質能力を養うために、どのような工夫がされているか。
- 3社とも持続可能な社会を目指す態度が養われるよう配慮されている。東京書籍では関連する内容に「環境」マークを付け、社会や環境に配慮し責任ある行動がとれる生活者の育成を目指している。教育図書では、SDGs（Sustainable Development Goals持続可能な開発目標）のロゴを関連するページに掲載し、持続可能な社会への関心と理解が深まるように工夫されている。開隆堂では、国連のSDGsのロゴを用いたり、共生社会・伝統文化などを取り入れ、社会に目を向ける内

容について豊富に取り上げている。

- ・ あいちの教育ビジョン2020では、「自ら高めること」と「社会に役立つこと」を基本的視点とした「あいちの人間像」の育成を目指しています。そのために、3社が具体的にどのような工夫をしているか。
- 3社とも、個人・家族共に多様な存在を尊重し、様々な工夫がされている。東京書籍では、「プロに聞く」を設定し、社会で活躍している技術に携わる人々に着目し、産業教育の発展を紹介し、豊かな文化を創造できるようにしている。開隆堂は、「先輩からのエール」を設定し、働く人の写真やインタビューの記述を通して、職業観・勤労観を育み、学んだ事を社会へ生かすよう工夫されている。教育図書は、単元ごとに「センパイに聞こう」を掲載し、様々な職業や地域の人々の考えから学びを人生や社会に生かす工夫がされている。
- ・ 主体的な学びや対話的な学びを実現し、思考力、判断力・表現力を育成するために、どのような工夫がされているか。
- 3社ともに、生活の中から課題を発見し、課題を解決するために、実習などを通して基礎的・基本的な知識・技能を習得し、話し合ったり発表したりして、これからの生活に生かしていくという3ステップの問題解決的な学習の流れになっている。また、3社とも単元の始めに「考えてみよう」が設定されており、その単元で学ぶことを主体的に考え取り組むことができる工夫がされている。東京書籍は、ページ下に「生活に生かそう」や「まとめよう」が設定されており、学んだことを生かして考えたり実践させたりしやすい工夫がされている。教育図書は、「調べてみよう」「やってみよう」で興味・関心を引き出す工夫がされている。開隆堂は「話し合ってみよう」「生活に生かそう」が設定されており、主体的な学びや対話的な学びをしやすくしている。3社ともに、身近な社会で働く人からのメッセージを紹介し、将来を見据え、学んだことを社会に生かすことができるよう配慮されている。また、各社、自他の健康や安全について考えることができるように学習内容を充実させ、命を大切に、健やかな心と体を培うことができるよう配慮されている。

○ 中学校家庭科の協議

- ・ 3社とも、生活の営みに係る見方・考え方を働かせて課題を見付け、解決するという過程を経ていることは評価できる。中でも、東京書籍はそのプロセスを繰り返し、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう編集されているのがよい。自分の生活と現代社会や世界の状況を幅広く視野に入れて、持続可能な社会や環境について考えられる態度が養われるよう配慮されている。
- ・ 東京書籍は、生活を展望する時間軸の視点と、家族や社会とのつながりという空間軸の視点を用いて、生活をよりよくするよう内容が精選されている。家庭の機能を理解し、家族や地域の人々と協働することや、幼児触れ合い体験、高齢者との交流等、人とよりよく関わる力を育成するための学習活動を行うことが大切であると考え。基礎・基本から応用・発展へと段階的に題材が設定され、精選された適切な内容である。また、多様な実習例を数多く取り上げ、製作や実習の学習では、デジタルコンテンツを効果的に活用し、実践的・体験的な学習ができるよう工夫され

ている。

- ・ 今後の社会を担う子供たちには、家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の現代的な諸課題を適切に解決できる能力が求められる。そういう点から考えたときに、東京書籍の教科書は、自分の身の周りの生活と、自然環境や国際社会等との関わりを通して、持続可能な社会を目指す態度が養われるよう配慮されており、育成したい能力を身に付けるのに適していると言えると思う。東京書籍の教科書を選定してはどうか。
- ・ 協議の結果、全員一致で「東京書籍」のものを選定する教科書として決定。

○ 中学校英語の報告

- ・ 見本本の送付のあった東京書籍、開隆堂、三省堂、教育出版、光村図書、啓林館の6社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 中学校英語の質疑

- ・ 小学校外国語科からの接続に対して、各教科書にどのような工夫がなされているか。
→ どの教科書も単元の目標が明確に示されており、小学校での既習事項との比較がわかりやすくなっている。QRコードの活用や慣れ親しんでいる紙面構成など、小学校からの円滑な学習の接続を考えた際、東京書籍が最も効果的である。
- ・ 自国の文化だけでなく、英語圏の文化にも興味・関心をもたせ、グローバルな視野を養うために各教科書はどのような配慮がなされているか。
→ どの教科書も様々な内容を取り上げており、グローバルな視野を広げることができるよう配慮されている。特に東京書籍は英語を公用語とするアジアの国やSDGsのような今日的課題、知的好奇心を喚起する題材などが豊富に扱われている。
- ・ 自立した学習者の育成に向けて、各教科書ではどのような工夫がなされているか。
→ 英語と日本語の違いや多様な国の文化や考え方に触れる題材を通して言語や異文化に対する興味・関心を高めたり、「学び方コーナー」などで英語学習のポイントやコツを取り上げたりしている教科書が多い。その中でも東京書籍は、生涯英語を学ぶ主体的な学習態度を育成するという姿勢を明確に示しており、学習に役立つコツを系統的に紹介しており、紙面に付したQRコードやDマークコンテンツ、発音チェックシステムなどで、家庭での学びをサポートするシステムも充実している。

○ 中学校英語の協議

- ・ 東京書籍で扱われている題材や人物の出身国は、多様な世界の国々から設定されており、文化に対する理解の深まりと相手を意識した主体的なコミュニケーションを図ろうとする態度の育成ができるような内容が選択されている。また、既習事項をスパイラルに学習できるように工夫されており、基礎・基本の確実な定着を図りながら、目的・場面・状況に合わせたコミュニケーション能力の育成ができるような構成になっていると感じる。
- ・ どの教科書も、4技能5領域をバランスよく配置しており、統合していく過程で平易な表現から難しい表現へと段階的に高める工夫がなされている。特に、東京書籍では、コミュニケーション

ン活動を行う「目的」「場面」「状況」がしっかり明示されており、常に課題を明確にした上で活動に取り組むことができるように思う。

- ・ 外国語で表現し伝え合うためには、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら行わなくてはならない。そういう意味で、英語はただ単に言語活用のツールを学ぶのではなく、同時に文化も学ぶ必要がある。東京書籍は、文化に対する理解の深まりと相手を意識した主体的なコミュニケーションを図ろうとする態度が育成できるよう、世界への視点を持ち、自国の理解を深められるよう工夫されている。小学校からのつながりもよい。東京書籍を選定してはどうか。
- ・ 協議の結果、全員一致で「東京書籍」のものを選定する教科書として決定。

○ 中学校道徳の報告

- ・ 見本本の送付のあった東京書籍、教育出版、光村図書、日本文教出版、学研教育みらい、廣済堂あかつき、日本教科書の7社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 中学校道徳の質疑

- ・ あいちの教育ビジョン2020の基本理念にあるように、子どもたちがこの地域への理解と愛着を深めるような道徳教育も必要だと思う。これらについて、どのように取り扱われていたか。
- 各社「自らを高めること」「社会に役立つこと」を基本的視点とした「あいちの人間像」の実現に向けて十分配慮されている。その中で、愛知県のものづくりに関わる偉人や、愛知県出身で活躍するスポーツ選手などが教材として取り上げられており、子どもたちの関心を引き出しやすい工夫がされていた。中でも教育出版は、先人の努力や伝統・文化を発展させてきた人たちの言葉や思いを通して、自分自身を高めていこうとする意欲を培うことができるよう配慮されている。
- ・ 道徳の授業における評価についても考えていかなければならないと思うが、評価という点についてはどうだったか。
- 道徳の評価は、自己評価や振り返りを適切に取り入れていくことで、より深い学びにつなげたり自らの成長を感じ取ったりできると考える。そのような観点で教科書を見ていくと各社とも様々な工夫がなされている。日文と廣済堂は、別冊ノートにしっかりとした振り返り欄がある。教出版は、道徳の学びを記録しようというページで1年間の振り返りができるページがあった。
- ・ 「いじめ問題」さらには、「生命尊重」という観点も道徳を指導する上で、大切な1つであると思う。これらの取り扱いについて特徴的なことはあるか。
- 道徳の授業において「いじめ問題」への対応や対処はとても大切なことです。また、いじめの問題を取り上げるといことは、「仲間を大切にする」「命を大切にする」つまり、「生命尊重」ということにもつながっていく。道徳の授業がその中心的な役割をもつことは言うまでもない。そういった意味からも、今回研究した7社とも「いじめ問題」には力を入れており、多くの会社が1年生から3年生までの全学年に複数の教材を配置していた。特に、教育出版は、いじめ問題

や生命の尊厳について深く考え、多面的・多角的に考えられる内容となっている。

○ 中学校道德の協議

- ・ 道德の授業に生徒が意欲的に取り組むには「使いやすい」とか「読みやすい」教科書という観点はとても大切なことである。そのような面から見比べると各教科書とも、ただ単に教材文を掲載するだけでなく、インパクトのある写真やイラスト、本文をより深く理解する上で有効な挿絵、グラフ、新聞記事などを掲載し、生徒にとって「使いやすい・読みやすい」工夫がされていると感じる。中でも、教育出版は、印象的なイラスト、写真が多く、教材の内容が理解しやすくなるように工夫されている。
- ・ 道德は、よりよく生きるために自分を見つめ直すことが大切である。教育出版は、生徒の生活実態を描いた等身大の教材が多く、人間としての生き方について考えを深められるよう構成されており、関連した「問い」が提示してあるので、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。また、巻末に活躍した人の言葉が掲載され、授業の感想を書き込むことで、自らの生き方を振り返ることができるように工夫されている。これらのことから考えると教育出版がふさわしい。
- ・ いじめについては、他人事としてではなく、自分の問題としてとらえられるような教材が必要である。教育出版は、いじめ問題や生命の尊厳について深く考え、多面的・多角的に考えられる内容となっている。また、内容を理解しやすい教材が多く、自分のこととして考えを深めることができるように工夫されていることに加え、生徒が共感したり、身近に考えたりできる教材も多く掲載されていることから、教育出版を選定してはどうか。
- ・ 協議の結果、全員一致で「教育出版」のものを選定する教科書として決定。

5 連絡、依頼事項

- 採択協議会事務局のローテーションについて
- 資料の取り扱いなどに関する連絡

6 閉会

- 閉会宣言